

主題セッション 3

「外科病棟の胃・十二指腸潰瘍症例の実情」

司会 栗原 直人（練馬総合病院）

高橋 直人（東京慈恵会医科大学附属柏病院外科）

消化性潰瘍治療は PPI や *H. pylori* 除菌の普及により、潰瘍の発生率・再発率は減少した。しかし、出血や穿孔による重篤な合併症で死亡に至る例も依然存在する。近年は NSAIDs や LDA による薬物性潰瘍が増加し、基礎疾患を有する高齢患者では緊急手術の危険が高まっている。一方、外科医は定型な潰瘍手術を経験する機会が減少した。本セッションでは、現在の外科病棟における潰瘍症例の実態を踏まえ、外科的治療戦略と予後について検討する。